

【要 旨】

1. 諸言

近年、自己決定の尊重が重視される傾向にある。社会福祉基礎構造改革では自己決定の尊重が基本理念の一つとされた。2000年に施行された介護保険法においても自己決定の尊重が重視され、利用者支援を行う職種のケアマネジャーが導入された。ケアマネジャーも利用者の自己決定の尊重を基本姿勢にしている。しかし、福祉分野での自己決定はケアマネジャーにとって曖昧であり、ケアプラン作成時等において、実際に利用者の自己決定が尊重されているのかどうかは明らかではない。

2. 研究方法

本研究ではケアマネジャーを対象とし質問紙調査(2010年11月～)を行う予定である。本報告では質問紙調査の前段階として行ったケアマネジャーへのインタビュー調査を取り上げる。

調査日及び調査対象：

2010年5月21日 X県ケアマネジャーA氏

2010年5月27日 Y県ケアマネジャーB氏, C氏

調査方法：半構造化面接法

3. 結果と考察

インタビュー調査の結果、利用者の生命が危機にある場合はケアマネジャーが強引に決定することがあること、制度に従うために自己決定が形式的になる可能性があることが明らかとなった。それ故、福祉分野の自己決定を考える際に対立し得る仮説として、倫理重視の自己決定と本人の価値重視の自己決定、及び、形式上の自己決定と生活上の自己決定といった視点の分類が可能となる。

今回の結果を含めケアマネジャーへの質問紙調査から、利用者の自己決定の尊重や認識を明らかにしていくことが今後の課題である。

4. 参考文献

川村孝彦『支援者が成長するための50の原則—あなたの心と力を築く物語—』, 中央法規, 2006.
北川清一・久保美紀編著『シリーズ・ベーシック社会福祉第2巻 社会福祉の支援活動—ソーシャルワーク入門—』, ミネルヴァ書房, 2008.